政策コメンテーター報告（第3回、意見照会期間：2014年10月24日～11月５日） 柳川範之：東京大学大学院経済学研究科教授

質問事項		記述式回答
来年秋を見据えて、現在の景気の基調		
1	９月16日の経済財政諮問会議において、2015年秋を見据えて、現在の景気の基調を見る際、以下の5項目について今後注視すべきとされました。これらを参考に、現在の景気の基調や考慮すべきリスクをどうご覧になっているか、また、とるべき対応があれば、合わせて300字以内でご記入ください。 ① 消費の安定的増加、それを支える雇用者数・賃金の伸び（正規比率の上昇を含め）や消費マインド ② 企業収益の動向、民間設備投資の強さ（設備投資計画の動向も含む） ③ 輸出入の動向、交易条件の動向 ④ 物価動向（一時的要因を除いた実勢と期待物価） ⑤ マーケット（株価、為替、金利等）の動向	
地方創生・地域活性化		
2	地方創生・地域活性化に向けて、重点的に取り組むべき課題及び対応策につき、ご自身（自社）の知見・経験も踏まえてお考えを300字以内でご記入下さい。その際、地方が抱える課題の背景についても、併せてご記入下さい。	地方創生、地域活性化にあたっては、人材の積極的な活用が重要なポイントの一つとなる。地域間を超えたひとの移動や都心部の人材の地域への移動等を積極的に促して、新しい人材の組み合わせや相互作用が形成されるよう促していくべきである。また、地域連携も積極的に促していくことで、新しい組み合わせがより積極的に可能になる。しごとをつくり、希望を与えるためにも、個々の地方、地域が新しいアイディアに基づいて、経済活動を活性化させていくことが必要であり、そのためにも、新しい人材の組み合わせを実現させていく必要がある。
その他		
3	10月下旬の為替相場は107円台付近で推移しています。最近の為替相場の動向やその景気への影響について、ご見解があれば300字以内でご記入ください。	為替相場の動きは、そのレベルもさることながら、変化率の大きさも、企業行動や消費行動に大きな影響を与える。その点からすれば、急激な為替相場の動きは、景気への影響が大きく、注視していくべき対象と考える。